

中国茶の含水率と水分活性

農研機構果樹茶業研究部門 池田奈実子
食品科 渡瀬隆也

Moisture Contents and Water Activities in Chinese Tea

Namiko IKEDA and Takaya WATASE

茶業研究報告, 第122号, 9-14 (2016)

Keywords : *Camellia sinensis*, Chinese tea, moisture content, water activity

キーワード : 中国茶、含水率、水分活性

日本茶の茶種が多様化した場合の適正な含水率の知見を得るために、中国茶の含水率と水分活性を測定した。また、中国及び台湾産の紅茶と他の産地の紅茶の含水率及び水分活性の比較を行った。中国茶の茶種間で含水率に差が認められた。白茶、黒茶の含水率は青茶、緑茶、紅茶より高かった。中国産の紅茶の含水率の平均値は8.73%で、ネパール、インド、日本産の紅茶の含水率より高かった。青茶は含水率のばら

つきが大きかった。緑茶、青茶、紅茶、黒茶においては茶の含水率と水分活性の間に正の相関関係が認められ、含水率が高いほど、水分活性が高い傾向が認められた。黒茶は青茶、白茶、紅茶に比べて同程度の含水率の場合は水分活性が低い傾向が認められた。ほとんどの中国茶の水分活性は0.6前後より低く、含水率が12%程度までは微生物は繁殖できないと考えられた。